

【】世界の人口・人口爆発

[世界の人口]

[解答 1]約 78 億人

[解説]

2020 年の世界人口は約 78 億人 である。人口が最も多い地域はアジアで、世界の人口の約 6 割が集中している。アジアについて人口が多い地域は、人口増加率が高く食料不足の問題が起きているアフリカである。人口(2020 年)の多い 5 か国をあげると、1 位 中国(14.4 億人, 世界人口の約 5 分の 1)、2 位 インド(13.8 億人)、3 位 アメリカ合衆国(3.3 億人)、4 位 インドネシア(2.7 億人)、5 位 ブラジル(2.1 億人) である。日本の人口は 1.26 億人 で世界 11 位である。

[世界の人口]

世界の人口: 約78億人

アジアが約6割

1位中国, 2位インド

(日本は1.26億人)

(統計修正)「日本国勢図会 2021/2022」 P19～24

※入試出題頻度：「78 億人○」「人口順位：中国・インド・アメリカ△」

(頻度記号：◎(特に出題頻度が高い), ○(出題頻度が高い), △(ときどき出題される))

[解答 2]X ロシア Y アメリカ Z 中国

[解説]

イのインド・インドネシアからイが人口だとわかる。面積は、ロシア(X)・カナダ・アメリカ(Y)・中国(Z)の順。人口は、中国(Z)・インド・アメリカ(Y)の順。

(統計修正)「日本国勢図会 2021/2022」 P20～24

[解答 3]イ

[解説]

人口が世界一の国は中国である。アはロシア、イは中国の一人っ子政策、ウは日本、エはオーストラリアのことを述べている。

(統計修正)「日本国勢図会 2021/2022」 P469

[解答 4]2

[解答 5]ユーラシア大陸

[解説]

ユーラシア大陸はアジア州とヨーロッパ州にまたがる大陸である。アジア州は人口が最も多い地域で、世界の人口の約 59.5%(2020 年)が集中している。ヨーロッパ州も人口が多く全世界の 9.6%(2020 年)をしめる。したがって、ユーラシア大陸の人口は、世界全体の約 69%である。

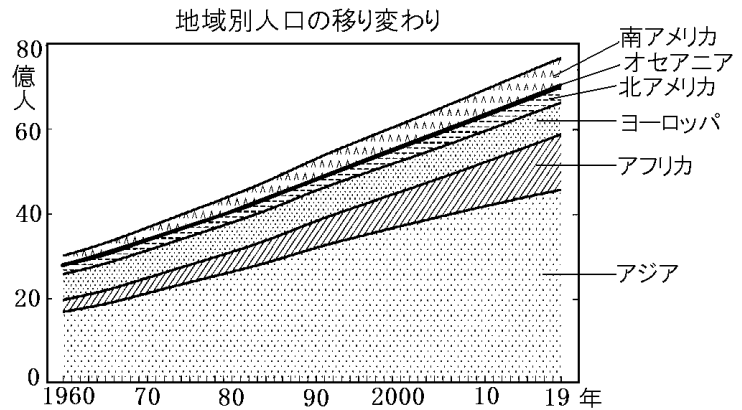
(統計修正)「世界国勢図会 2020/2021」 P35

[人口爆発]

[解答 6]人口爆発

[解説]

1950年に約25億人であった世界の人口は、20世紀後半に急激に増加し、2020年には約78億人と約3倍になった。このような急激な人口増加を人口爆発という。人口爆発はアジアやアフリカの発展途上国で著しい。右図のように、もっとも人口が増加したのは、アジアで、2番目はアフリカである。



ヨーロッパや日本などの先進工業国では、少子高齢化が進んでおり、人口の減少の進んでいる国もある。

[人口爆発]
アジア・アフリカの
発展途上国で人口が急増

(統計修正)「日本国勢図会 2021/2022」P51

※入試出題頻度：「アジアとアフリカで人口爆発○」「グラフ(アジア・アフリカ)○」

[解答 7]A

[解答 8](1) B (2) エ

[解説]

- (1) 人口増加が著しい地域はアジアとアフリカであるが、人口が最も多いのはAのアジアなので、Bがアフリカと判断できる。Cはヨーロッパ、Dは北アメリカである。
- (2) ア～ウは先進国の人口の特徴である。

[解答 9]ア

[解説]

人口爆発がおこっているのはアジアとアフリカであるが、特にアフリカにおける人口急増が著しい。1950年に2.2億人だったアフリカの人口は、2020年には13.4億人へと約6倍になった。さらに、2050年には約20億人になると予想されている。

人口爆発の原因は、医療が普及して死亡率が下がったが、出生率が高いままであったことである。

アフリカの国では、人口の急増に食糧増産が追いつかず、飢餓に苦しむ人々が少なくない。また、農地や放牧地の無理な開拓により、砂漠化や熱帯林の破壊がすすみ、食糧不足は今後さらに深刻化することが心配されている。

[解答 10]医療が普及して死亡率が下がったが、出生率が高いままであった

[解答 11]食料が不足する問題

【】日本の人口

[人口ピラミッド]

[解答 12]ピラミッド

[解説]

図のような、^{ねんれい}年齢別の人口^{こうせい}構成をあらわしたグラフを人口ピラミッドという。たて軸に年齢、横軸には人口(割合)をとり、左に男性、右に女性と分ける。

^{しゅっせいりつ}出生率と^{しばうりつ}死亡率がともに高い場合は、年齢が高くなるにつれ人口が減っていくため富士山型になる。

戦前の日本は、^{たさんたし}多産多死であったため、典型的な富士山型であった。^{はってんとじょう}発展途上国の場合も富士山型の人口ピラミッドになることが多い。

先進国では、出生率、死亡率ともに低くなるため、子どもの数とお年寄りの数の差が富士山型よりも小さいつりがね型になる。さらに、現在の日本のように、出生率が低下傾向にある国では、子どもの数が少なくお年寄りの数が多くなるため、人口ピラミッドはつぼ型になる。

※入試出題頻度：「人口ピラミッド○」「発展途上国は富士山型(図)△」

「現在の日本はつぼ型(図)△」

[解答 13]イ

[解答 14]つぼ型

[解答 15]ア：エチオピア イ：インド ウ：アメリカ合衆国

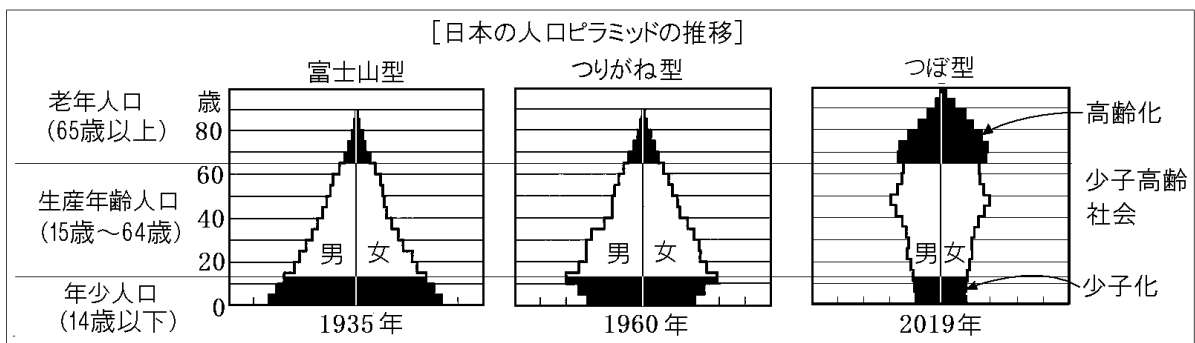
[解説]

エチオピアはアのような富士山型である。アメリカ合衆国はウのようなつりがね型である。

[日本の人口ピラミッドの推移]

[解答 16]Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ

[解説]



1935年のグラフは富士山型である。戦前の日本では、出生率・死亡率ともに高かったので、14歳以下の人口が多く、65歳以上の人口が少ない人口構成になっていた。

まん中の1960年のグラフでは、10～20歳の人口がとくに多くなっているが、これは戦後のベビーブームの影響である。(1945年に太平洋戦争が終わり、結婚する人が増加し、その結果出生児の数が急増した)

2019年のグラフはつぼ型である。70歳代の人数が多いが、これは戦後のベビーブームの世代が70歳代になったためで、高齢化が進んでいることがわかる。20歳以下的人数が、年少になるほど少なくなっているが、これは少子化の影響である。現在の日本は、少子高齢化が進んでいる。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P43

※入試出題頻度：「日本の人口ピラミッドを年代の古い順に並べかえよ◎」

[解答 17]① ア ② 高齢者の割合が高く、子どもの割合が低い。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P43

[少子高齢化]

[解答 18]① 高く ② 3.5人

[解説]

老年人口(65歳以上の人口)の割合が7%を超えると、人口の高齢化が進んでいる社会といわれる。日本では、1970年ごろに老年人口が7%をこえ、現在(2019年)の老年人口は28.4%になっている。今後はもっと高齢化が進むと予想されている。日本は他の欧米諸国と比較して、高齢化の進行速度が非常に速い。また、出生率は低い水準にあつて、少子化も進んでいる。

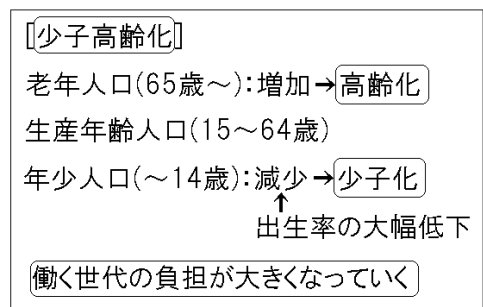
少子高齢化は、さまざまな面で今後ますます大きな問題になってくると考えられる。

特に、高齢者福祉を支える生産年齢人口が減っていくため、生産年齢者 1人あたりの負担が増えていくという問題がある。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P43

※入試出題頻度：「少子高齢化○」「少子化○」「高齢化○」

「働く世代の負担が大きくなっていく○」



[解答 19]15 歳未満：イ 15 歳～64 歳：ア 65 歳以上：ウ

[解説]

高齢化が進み、高齢者の割合は増加を続け現在は 28%を超えているので、ウが 65 歳以上のグラフであると判断できる。また、15 歳未満の年少人口の割合は減少を続けているのでイが 15 歳未満のグラフとわかる。

[解答 20]子供が減少し、高齢者が増加する現象。

[解答 21]年少人口の割合が低く、老年人口の割合が高い。

[解答 22]若い世代の負担が大きくなる。

[解答 23]ア

[解説]

アは正しい。日本は現在世界一の長寿国である。イは誤り。食糧不足の問題は解決していない。ウは誤り。中国の人口増加は、一人っ子政策である程度抑制されてきたが、人口は依然として増加傾向にある。エは誤り。人口ピラミッドは、先進国はつりがね型、発展途上国は富士山型である。

【】 人口密度・過密と過疎

[人口密度]

[解答 24]21 人/ km²

[解説]

国や地域の人口を、その国や地域の面積で割ったものを人口密度といい、

$(\text{人口密度}) = (\text{人口}) \div (\text{面積})$ で求める。

$(\text{人口密度}) = (\text{人口}) \div (\text{面積}) = 27550000(\text{人}) \div 1290000(\text{km}^2) = 21.35 \cdots (\text{人}/ \text{km}^2)$

※入試出題頻度：この単元はときどき出題される。

[解答 25]人口を土地の面積で割る。

[解答 26]D

[解答 27]エ

[解説]

$(\text{人口密度}) = (\text{人口}) \div (\text{面積})$ なので、

$(\text{人口}) = (\text{人口密度}) \times (\text{面積})$, $(\text{面積}) = (\text{人口}) \div (\text{人口密度})$

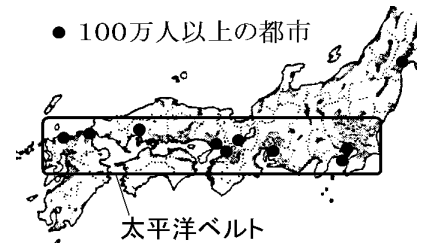
例えば、ア： $(\text{面積}) = 1315840000 \div 137 \approx 960$ 万 km²

[日本の人口の分布]

[解答 28]関東地方

[解説]

日本の人口は、おもに太平洋側沿岸に集中している。日本の、関東から北九州までの人口が集中した地域を太平洋ベルト地帯という。この地域は、地形で見ると平野や盆地が多く、産業面から見ると工業のさかんな地域で、札幌と仙台をのぞくすべての100万都市は、太平洋ベルト地帯の中にある。



※入試出題頻度：この単元はときどき出題される。

[解答 29]B

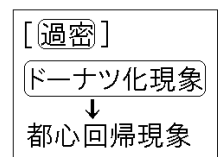
[解答 30]多くの労働力を確保しやすいこと。

[過密]

[解答 31]過密

[解説]

ある地域に人口や建物などが集中しすぎることを^{かみつ}過密という。とくに、東京は、政治や経済などの様々な中心が集まっているため、過密地域になっている。過密地域では、交通^{じゅうたい}渋滞、住宅不足、大気汚染、ごみ問題などが深刻である。



都心部の地価が上昇し、人々は、比較的安い土地が得られる郊外^{こうがい}のニュータウンなどに住むようになった。その結果、都心部の人口が減少する一方で郊外の人口が増加し、人口が都心を中心にしてドーナツのよう^{ぶんぶ}に分布するようになった。この現象^{げんしょう}をドーナツ化現象という。(東京や大阪の中心部の昼間人口が夜間人口よりも多いのは、昼間、通勤や通学で都市の中心部へ来ていた人が、夜は周辺の郊外へ帰るからである。)

バブル経済が崩壊^{ほうかい}した1990年代以降、地価が安定してきたこともあって、再開発された都心部の高層住宅^{こうそう}に住む人が増える都心回帰現象^{としんかいきげんしょう}も見られるようになっている。

1960～70年代に建てられたニュータウンでは、現在、住民の高齢化が問題になっている。

※出題頻度：「過密(過密化、過密地域)○」「ドーナツ化現象○」「都心回帰現象△」

「交通渋滞、住宅不足、大気汚染、ごみ問題△」

[解答 32]① 過密 ② ドーナツ化 ③ 都心回帰

[解答 33]ニュータウン

[解答 34]人口が集中すると、朝夕の交通量が増えて、交通渋滞が問題となるため、道路や鉄道網を整備するなどして、その緩和をはかっている。

[解答 35]大阪府などへ通勤・通学する人が多いから。

[解説]

滋賀・兵庫・奈良・三重・和歌山は昼夜間人口比率が 100%未満になっているが、これは、通勤や通学などで大阪府などに移動するため、昼間人口が少なくなっている。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P54

[解答 36]① 昼間人口が夜間人口より少ない。 ② 昼間に大阪府などへ通勤、通学する人が多いから。

(統計修正)「日本国勢図会 2020/2021」P54

[過疎]

[解答 37]過疎地域

[解説]

農村(とくに、^{さんかんぶ}山間部や^{りとう}離島)では、若い人が仕事を求めて都市部へ出て行き、人口の減少と高齡化が進んでいる。

その結果、経済活動がおとろえ、公共交通機関がなくなるなど、地域社会を維持する機能が弱くなる。

このように、地域の人口が減少することにより、地域住民の生活が成立しなくなる現象を^{かそ}過疎といい、そのような地域を^{しゅうらく}過疎地域という。過疎地域の中には、高齡化が極端に進み、65歳以上の人口が過半数をしめる^{げんかいしゅうらく}集落もある。このような集落を^{げんかいしゅうらく}限界集落という。

このような過疎問題に対し、地域の産物や自然を生かした町おこし・村おこしがさかんになっている。観光地の開発・^{さんそんりゅうがく}山村留学に力を入れる村も出てきている。

※入試出題頻度：「過疎(過疎化、過疎地域)○」「限界集落△」

[過疎問題]

農村(とくに山間部や離島):若者の流出



人口減少, 高齡化 → 過疎

さらに, 限界集落

[解答 38]① 過疎化(過疎) ② 限界集落

[解答 39]① 名古屋 ② 過疎

[解答 40]ウ

[解答 41]平野